

# (内容) と (ねらい) に関する一考察

— 「数量に関する事項」に注目して —

## A Study of “Content” and “Teaching Goals”

— from the View of “the Matter of Number and Quantity” —

菊 野 秀 樹

Hideki KIKUNO

キーワード：保育内容「環境」・教育課程・指導計画・内容、ねらい・保育者の成長

### 1, はじめに

教育課程, 保育課程, 指導計画においては, 具体的な(内容)と(ねらい)を設定しなければならない。これが簡単なことではないと感じている。実習生が担当教諭から(内容)と(ねらい)を聞き, 日誌に書いたものを見ると, (内容)と(ねらい)に同じようなことが書かれている場合がある。例1:(内容)友だちや保育者とルールを守って集団遊びを楽しむ。(ねらい)友だちと一緒に身体を動かしたり, ルールのある集団遊びをしたりして楽しむ。また, (内容)に「楽しむ」を付けて(ねらい)にする場合もよく見られる。例2:(内容)雛飾りをつくる。(ねらい)指先を使って雛飾り作りを楽しむ。例3:(内容)チューリップの芽や木の芽を実際に見に行く。(ねらい)チューリップや木の芽など春みつけを楽しむ。例4:(内容)友だちと身体を動かして遊ぶ。(ねらい)友だちと楽しさを共有したり, 励まし合ったりし, 斜面のぼりを楽しむ。

(内容)は教師が指導する事柄(子ども側からすると経験), (ねらい)は育つことが期待される子どもの姿である。したがって, (内容)を繰り返すことで(ねらい)に向かうという関係にある。上述の(内容)と(ねらい)を保育現場を想像し, また, 幼稚園教育要領解説を参考にして考えてみる。例1:(内容)きまりの大切さに気付く。(ねらい)友だちと一緒に身体を十分に動かし, ルールのある集団遊びを楽しむ。(参考:人間関係[内容](11))例2:(内容)伝統的な行事に触れる。(ねらい)季節感を感じる。(参考:環境[内容](3))例3:(内容)季節の変化に触れる。(ねらい)季節の変化に気付く。(参考:環境[内容](3))例4:(内容)友達と楽しさを共有したり, 励まし合ったりする。(ねらい)クラスの友達と親しみ, かかわりを深める。(参考:人間関係[内容](8))

このように, 設定者によって(内容)と(ねらい)は異なってくる。それは, 保育経験, 子ども観, 保育観など, 様々な要因が影響するからであろう。また, 子どもの姿を想像しながら(内容)と(ねらい)は設定される。その中には(内容)と(ねらい)が同じ文言になる場合もあるし, (内容)に「楽しむ」を付けたものが(ねらい)となる場合もある。そのようなことから, (内容)と(ねらい)は多様にあってよいと考えている。その評価は保育を通してなされるであろう。本稿では, 設定された(内容)と(ねらい)が正しいかどうかではなく, 保育者が(内容)と(ねらい)に向き合うことの大切さを考えていきたい。

本研究ノートは, 市販されているテキストの保育課程, 教育課程, 指導計画の中から「数量に関する事柄」に注目し, (内容)と(ねらい)の関係を調べ, そこから推測される保育意図について考察し, 保育者が(内容)と(ねらい)に向き合うことの意味について考えることを目的とする。

1, 「数量に関する事項」が設定されている保育・教育課程, 指導案から(内容)と(ねらい)の関係をみる。

例 1：保育課程 A<sup>1)</sup>

3 歳

(ねらい) 身近な環境や人に興味をもったり、大好きな遊びを見つけてかかわりや遊びを進めてく。

(内容) 生活や遊びの中で身近な自然事象をよく見たり，物の色，数，量，形などに興味をもち，その違いに気付くなど身近な事物への関心をもつようになる。

4 歳

(ねらい) 保育士や友達とのかかわりを広げ，友だちと一緒に遊ぶことを喜んだり，集団で活動することを楽しむ。

(内容) 自然や身近な事物に触れながら，物の色，数や量，形に興味をもち，比べたり分けたり，集めたりすることを楽しむ。

5 歳

(ねらい) さまざまな経験を通して自分で考えたり，判断したりなどして自己発揮しながら周囲の人や友だちの思いを受け止めていこうとする。

(内容) 文字，数，形，時刻などに関心をもつ。

(下線は平成 11 年通知 保育所保育指針「保育の内容」同年齢で使われている文言)

1, 3, 4, 5 歳保育課程 (ねらい) あり。(内容) あり。

2, 3, 4 歳で「興味をもつ」, 5 歳で「関心をもつ」という文言が使われている。

3, 5 歳は「量」の文言がない。

4, 平成 11 年通知保育所保育指針では，保育の内容「環境」に 3, 4, 5 歳で「数量に関する事項」が設定してある。下線で示したように「興味」「関心」の使い分けが指針と同じである。

保育課程 A は，平成 11 年通知以前の『保育所保育指針』を参考にしながら園独自の保育課程を設定している。それは，「数量に関する事項」が 3 歳から入っていること，また，「興味をもつ」「関心をもつ」という文言が使い分けられていることから推測できる。

興味の「興」は「起こす」という意味，「味」は「おもしろみ」という意味である。「興味」は心に面白みが起きるといこと。「関心」は心がかかわろうとすること。はじめに「おもしろみ」が起き，それが動機となって「関わろう」とする気持ちが生まれる。3, 4 歳で「興味をもつ」5 歳で「関心をもつ」という文言が使われているのは，そのような意味があるのではないか。

(内容) と (ねらい) の関係。3 歳：子どもが「数量に興味をもち，身近な事物に関心をもつ」経験ができるように教師は指導する (内容)。その指導を通して，子どもが「身近な環境や人に興味をもつ」「大好きな遊びを見つける」「かかわりや遊びを進めていく」という方向 (ねらい) に向かってほしいと願っている。4 歳：子どもが「数量に興味をもち，比べたり，分けたり，集めたりすることを楽しむ」経験ができるように教師は指導する (内容)。その指導を通して，子どもが「保育士や友達とかかわりを広げる」「友だちと一緒に遊ぶことを喜んだり，集団で活動することを楽しむ」という方向 (ねらい) に向かってほしいと願っている。5 歳：子どもが「数に関心をもつ」経験ができるように教師は指導する (内容)。その指導を通して，子どもが「自分で考える」「自分で判断する」「自己発揮しながら周囲の人や友達の思いを受け止めていこうとする」という方向 (ねらい) に向かってほしいと願っている。

例 2：教育課程 B<sup>2)</sup>

3 歳 1～3 月

(内容) ○遊びの中で数量や文字に興味をもつ。

4 歳 1～3 月

(内容) 数量や文字を使った遊びに夢中になって取り組む。

○時計や文字盤を見ながら自分たちで生活や遊びを進め，規範意識も高まり，友達に注意する。

- 5, 3, 4歳教育課程（ねらい）なし。（内容）あり。
- 6, 3歳は「興味を持つ」4歳は「取り組む」となっている。
- 7, 「数量や文字を使った遊び」という文言がある。
- 8, 「時計を見る」「自分たちで生活を進める」という文言がある。
- 9, 「興味を持つ」「取り組む」となっている。（平成20年第4次改訂幼稚園教育要領「数量に関する事項」は「関心をもつ」という文言が使われている）
- （内容）と（ねらい）の関係。4歳:子どもが「数量や文字を使った遊びに夢中になって取り組む」経験ができるように教師は指導する（内容）。（ねらい）が示されていないため、教師の指導（内容）によってどのような方向（ねらい）に向かってほしいと願っているのかわからない。

**例3：指導案C<sup>3)</sup>**

**4歳児2月指導案**

（ねらい）数，色，言葉遊びを楽しむ。

・カルタ，トランプ，カードなどを使い，触れる機会を多くつくっていく。また，文字スタンプを使ってお手紙を作ったり，言葉づくりを楽しめるよう，室内にある物に名称をつけ，子どもが文字にふれやすい環境を意識的に整える。

（ねらい）知的遊びを楽しむ。

・色，形，数字カルタを楽しんでいくことで，それぞれに対する興味を促していく。わかりやすい平仮名のカルタも作成し，興味を促していく。

**4歳2月指導案（ねらい）文字や数字遊びを楽しむ。**

・文字カルタや数字カルタを取り入れていく。

- 10, 4歳指導案（ねらい）あり。（ねらい）の下の文章は環境構成。

- 11, 数字遊びという文言がある。

（内容）と（ねらい）の関係。子どもが，「トランプに触れる，数字カルタを楽しむ」ことができるように環境を整え，興味を促していく（内容）。その指導を通して「数，色，言葉遊びを楽しむ」「知的遊びを楽しむ」「文字や数字遊びを楽しむ」方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。

**例4：指導計画D 5歳児11月<sup>1)</sup>**

（ねらい）共通の目的に向かって友達と意見を出し合い，工夫して遊ぶ。

秋から冬への季節の変化に気づき，興味や好奇心をもって友だちと表現することを楽しむ。

（内容）文字や数に興味をもって遊ぶことを楽しむ。

環境（カードゲームや五目並べ，オセロゲームなどを準備する）

文字や数に興味をもてるように，カードゲームやオセロゲームなど，友達と遊べるものや一人でじっくり取り組む遊びなど，工夫し子ども一人ひとりの苦手な部分の把握を行い，その子にあったかわり方や知らせ方を考慮して丁寧にかかわっていく。

- 12, 5歳指導案（ねらい）あり。（内容）あり。

- 13, 文字や数の遊びをする中で「興味をもつ」ことを（内容）としている。

（内容）と（ねらい）の関係。子どもが「文字や数に興味をもって遊ぶことを楽しむ」経験ができるように教師は指導する（内容）。その指導を通して，子どもが「共通の目的に向かって友達と意見を出し合い，工夫して遊ぶ」という方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。

**例5：保育課程E<sup>1)</sup>**

**5歳児**

（ねらい）身近な事物を見たり，考えたり，扱ったりする中，物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにする。

（内容）生活や遊びの中で，文字や数，量，形，位置，時間などに関心を持ち，学ぶことの楽しさや喜びを知る。

・時計を見ながら，自分たちで自分たちの生活を進めていこうとする。

・時計の針が動くことと時間との関連に興味を持ち，生活のなかで時計を意識する。

14, 5歳保育課程（ねらい）あり。（内容）あり。

15, 「学ぶ」という文言がある。

16, 「時計を見る」「自分たちで生活を進める」という文言がある。

（内容）と（ねらい）の関係。子どもが「生活や遊びの中で、文字や数、量、形、位置、時間などに関心を持ち、学ぶことの楽しさや喜びを知る」経験ができるように教師は指導する（内容）。その指導を通して、子どもが「身近な事物を見たり、考えたり、扱ったりする中、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする」という方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。

**例6：4歳児年間指導計画 F<sup>1)</sup>**

**I期（4・5月）**

（ねらい）・健康で安全な生活に必要な習慣や態度が理解でき、やろうとする。  
・身近な友だちや保育者との遊びを楽しむ。

（内容）日常生活の中で、数・量・左右・天気・形などの違いに気付き関心をもつ。

**Ⅲ期（9・10・11・12月）**

（ねらい）自然の移り変わりに親しみを持ち、疑問を追及したり生活に取り入れる。

（内容）具体的なものを通して数や量、色、形などに興味を持ち、分けたり集めたり比べたりして遊ぶ。

（下線は平成11年通知保育所保育指針「保育の内容」同年齢で使われている文言）

17, 4歳指導計画（ねらい）あり。（内容）あり。

18, 「興味」と「関心」という言葉を使い分けている。

19, 「生活の中」「具体的」「分けたり集めたり」は、平成11年通知保育所保育指針第8章4歳児の保育内容にある文言である。

（内容）と（ねらい）の関係。I期：子どもが「日常生活の中で、数・量・左右・天気・形などの違いに気付き関心をもつ」経験ができるように教師は指導する（内容）。その指導を通して、子どもが「健康で安全な生活に必要な習慣や態度が理解でき、やろうとする」「身近な友だちや保育者との遊びを楽しむ」という方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。Ⅱ期：子どもが「具体的なものを通して数や量、色、形などに興味を持ち、分けたり集めたり比べたりして遊ぶ」経験ができるように教師は指導する（内容）。その指導を通して、子どもが「自然の移り変わりに親しみを持ち、疑問を追及したり生活に取り入れる」という方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。

**例7：（子どもの姿）<sup>1)</sup>**

身近な自然に関心を持ち、発見を喜んで図鑑などを調べたり、友達に知らせたりしている。

（ねらい）

秋の自然に触れ、自然物を使って試したり、遊びに取り入れたりして楽しむ。

（内容）

自然物を使った遊びを通して、数量や形、色の違いなどに気付いて、関心を持ったり、遊びを工夫したりする。

**環境構成**

木の実などを集めたり、使って遊んだりできるようにする。数や形、大きさや重さの違いなどに関心をもてるようにし、発見に共感したり、子どもたちなりの考え方を一緒に楽しんだりする。（ドングリを転がすゲーム、収穫したカキを数えるなど）

20, 年齢情報なし（ねらい）あり。（内容）あり。

（内容）と（ねらい）の関係。子どもが「自然物を使った遊びを通して、数量や形、色の違いなどに気付いて、関心を持ったり、遊びを工夫したりする」経験ができるように教師は指導する（内容）。その指導を通して、子どもが「秋の自然に触れ、自然物を使って試したり、遊びに取り入れたりして楽しむ」という方向（ねらい）に向かってほしいと願っている。

**例 8：5 歳児 9 月の計画 G<sup>4)</sup>**

前月末の子どもの姿

虫や植物などの身近な自然の変化に気付き、興味をもってかかっている。

(ねらい)

身近な自然に興味をもってかかわり、変化に気付いたり、遊びに取り入れたりする。

(内容)

身近な自然にかかわり、集めたり比べたりして、数量や形、大きさに関心を持つ。

環境構成保育者の援助

容器や入れ物を用意し、種取をしながら、色や形、大きさなどの違いに気付けるように、種類別に分類できるようにする。

21, 5 歳指導計画, (ねらい) あり。(内容) あり。

21, 集めたり, 比べたりを (内容) としている。

22, 「関心を持つ」となっている。

(内容) と (ねらい) の関係。子どもが「身近な自然にかかわり、集めたり比べたりして、数量や形、大きさに関心を持つ」経験ができるように教師は指導する (内容)。その指導を通して、子どもが「身近な自然に興味をもってかかわり、変化に気付いたり、遊びに取り入れたりする」という方向 (ねらい) に向かってほしいと願っている。

**例 9：B 幼稚園 指導計画<sup>2)</sup>**

5 歳 週案 11 月 5 日～11 月 17 日

(内容) 遊びの中で数量や図形, 文字に関心をもつ。

環境構成

お家ごっこ, 秘密基地, アクセサリー作り, ごちそう作り, 影絵人形づくり, カセットデッキ, サッカー, リレー, 落ち葉, 飼育当番, サツマイモ畑など

(下線は平成 20 年第 4 次改訂幼稚園教育要領で使われている文言)

指導案 (ねらい) なし。(内容) あり。

(内容) と (ねらい) の関係。「遊びの中で数量や図形, 文字に関心をもつ」よう教師は指導する。(内容)。(ねらい) が示されていないので, その指導を通してどのような方向に育ててほしいかがわからない。

### 3, 考察

「数量に関する事項」について, (内容) と (ねらい) の関係を見てきた。各例の気付きで示したように (内容) と (ねらい) を示すことで設定者の保育意図がみえてくる。以下 (ねらい) を取り上げて考察していく。1, 身近な環境に興味をもつ。2, 遊びを進めていく。3, 集団で活動することを楽しむ。4, 自分で考えたり, 判断したりする。5, 自己発揮する。6, 数遊びを楽しむ。7, 数量を使った遊びに夢中になって取り組む。8, 知的遊びを楽しむ。9, 友達と工夫して遊ぶ。10, 数量に対する感覚を豊かにする。ここで気付くことは, 「数量に関する概念理解」を (ねらい) としている園が少ないことである。その理由として, 幼児期は系統的に数量に関する概念を教えるべきではないという考えや幼児期の特徴である個人差を配慮してのことが考えられる。

「数量に関する概念理解」を (ねらい) にすることは避けるべきであろうか。コンスタンス・カミイは, 「数の『指導』の目標は, 子どもが頭の中に数の構造を構成すること」<sup>5)</sup> であり, 保育者は, 「この構造を直接指導することはできないので, 子どもが活発に, 自発的に考えることを励ますように注意していなければならない」<sup>5)</sup> と, 述べている。これを参考にすると, (内容) 「数量に関し

て活発に自発的に考える。」(ねらい)「数の構造を構成する。」となる。また、領域「環境」のねらい(3)には、「身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。」とある。これを参考にすると、(内容)「身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする。」(ねらい)「物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。」となる。「数の構造を構成する」とは、子どもが頭の中に獲得していく概念である。また、「数量に対する感覚を豊かにする」とは、数量を多様に操作する感覚をもつようになることであり、これも子どもが頭の中に獲得していく概念である。幼児は、日常生活の中で数量を扱いながら生活している。保育者は、その場面に気付き適当な指導をする。そのような経験を通して、幼児は数の概念をしだいに獲得していく。このように考えると、「数の概念理解」は方向目標としての(ねらい)となり得る。

(内容)と(ねらい)は保育意図である。それによって保育者は、子どもを指導する視点と子どもを観察する視点をもつことになる。ここに(内容)と(ねらい)を設定する意義がある。指導する視点、観察する視点があることで評価する視点が生まれ、保育の質は変化していくからである。

保育課程Aでは、3歳から「数量に関する事項」を取り入れている。それによって、3歳から「子どもが活発に、自発的に考えることを励ますように指導する」、という保育者の意図を知ることができる。幼児は遊びながら物を並べたり、集めたり、数えたりする。それは数量を学ぶためにしているのではないが、そこに数量に興味をもつ萌芽がある。それを捉えることのできる保育者は、その時を教育の機会として捉え適切な言葉をかけようとする。その時期が3歳からあると保育課程Aは語っている。保育課程なので具体的な活動は保育者に任されている。その活動には数を唱える手遊びも考えられる。ままごとをしながら「たくさんあるね。」「少しちょうだい。」「あと一つちょうだい。これで三つね。」「二ついただくね。みんな三つずつになったね。」など、何気ない会話を交わすことも考えられる。お皿を並べたり、人数分のお皿を配り、お皿に食材を入れるということも考えられる。出席者と欠席者の人数を知らせることも考えられる。それらはすべて、「身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする」活動であり、そのような様々な経験を通して、「物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする」(していく)。

平成11年通知の保育所保育指針には、3歳児の発達の特徴として、自我がよりはっきりしてくることで、友達との関係が重要になってくること、注意力や観察力が伸びごっこ遊びに発展がみられるようになること、知識欲が強くなること、結果について予測ができるようになること、などがあげられている。それは、身近な環境への興味・関心が増す時期と言える。数量に関しても、子どもは大人の言動をよく見て自ら学ぼうとしている。教育の適時を知り指導することは保育者の大切な資質・能力である。その資質・能力を磨くために、(内容)と(ねらい)に向き合う必要がある。

保育者の意図を示したものが(内容)と(ねらい)であると述べてきた。また、子どもの発達についての認識や教育・保育要領の読み取りが、(内容)と(ねらい)の設定に影響を与えると考察してきた。教育・保育課程、保育計画の中にある(内容)と(ねらい)は、設定者の保育意図を示すと共に、保育に関する認識の深さを示す。保育者各自が自発的に(内容)と(ねらい)に向き合い、考えたり、疑問に思ったり、相談したり、変更したりすることを繰り返す。そのようにして保育を進めていくことが、自己の成長、保育の質の向上につながると考える。

#### 4、終わりに

(内容)は教師の指導(子ども側からいうと子どもが経験すること)、(ねらい)は保育者が願う子どもの育ちである。それらを示す重要性を述べてきたが、その結果は子どもの姿として現れる。子どもの姿は結果でもあり次の保育の始まりでもある。今後、(内容)(ねらい)に関連した「子ど

もの姿」について調べていきたい。

#### 註

- 1) 今井和子他著『独自性を活かした保育課程に基づく指導計画』—その実践・評価— 2010年 ミネルヴァ書房, 179頁。190頁。26頁。123頁。
- 2) 西久保ひろなり著『実践ハンドブック 幼稚園教育課程と指導計画』2008年株式会社ぎょうせい, 93, 95頁。110頁。
- 3) 高橋保子著『3・4・5歳児の指導計画』2007年 教育出版株式会社, 150, 162, 178頁。
- 4) 佐藤暁子・川原佐公編著『0～5歳児指導計画の書きかたがよくわかる本』2013年1月 ひかりのくに株式会社 178頁
- 5) 『幼児の数の指導』ピアジェ理論に基づく コンスタンス・カミイ著 中沢和子訳, 64, 88頁

#### (参考文献)

高杉自子他『'89告示幼稚園教育要領の解説と実践〔2〕』1989年

中沢和子『子どもと環境』萌文書林, 1990年。

中島紀子他『保育指導法の研究』, ミネルヴァ書房, 2007年。

三宅茂夫他『保育内容「環境」論』, ミネルヴァ書房, 2010年。

民秋 言『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』, 萌文書林, 2017年。

文部科学省『幼稚園教育要領解説』, フレーベル館, 2008年。